

## 2011(H23)年 6 月 22 日 6 月議会一般質問

○おはようございます。自由民主党福岡市議団、大原弥寿男と申します。市議会で初めての議会質問ということで、大変緊張しておりますが、ひとつ最後まで御清聴よろしく申し上げます。

それでは、自由民主党福岡市議団を代表いたしまして、国道 263 号の渋滞対策について、早良区南部における運動広場、公園の整備について、脊振山系におけるハイキングコース等の整備について及びイノシシ対策について、4 項目について質問いたします。

まず、国道 263 号の渋滞対策についてお尋ねします。

早良区は南北に長く、本市の区で最も広い面積を有し、隣接する自治体や行政区も多く、そのため、早良区内を走る道路には各行政区をつなぐ重要な役目を果たしているものが多くあります。その中でも、博多湾と有明海湾岸とを結ぶ道として太古から往来があり、今では本市と隣接している佐賀市との動脈の役目を担っている国道 263 号に関連して質問をさせていただきます。

国道 263 号は、福岡市と佐賀市を最短ルートで結ぶ主要幹線道路としてその役目を果たしており、現在は、佐賀方面だけではなく、長崎に向かう車も多く、このことによる渋滞で沿線住民の生活に不便を来

しています。行楽日和の日祭日の朝は野芥から内野まで、夕刻は三瀬トンネルから内野の間、5キロメートルほど渋滞することもたびたびです。国道263号は、那珂川町から小笠木峠を越えて早良に入る県道入部中原停車場線と早良平尾で合流しています。早良平尾から野芥までの間は、特に朝夕ともに渋滞が続いています。また、この春、外環状道路が全通し、東西方面の大動脈が完成したことは喜ばしいことですが、国道263号との交差点である野芥口交差点が渋滞しています。

そこで、国道263号における渋滞緩和に向けた道路整備の取り組み状況と野芥口交差点における渋滞対策についてお尋ねします。

次に、早良区南部における運動広場、公園の整備についてお尋ねします。

市民のライフスタイルが多様化する今日、市民スポーツの状況も年々変化し、ウォーキングなどの健康づくりを主眼とするスポーツ・レクリエーションについての関心が高まってきており、気軽に参加できるジョギングやランニングなども含め、至るところでさまざまなスポーツ・レクリエーションを楽しむ市民の姿を多く見受けます。中でも、地元の球団、福岡ソフトバンクホークスやアビスパ福岡の活躍もあり、野球やソフトボール、サッカーなど、子どもたちのクラブチームも数多くあります。このようなクラブチームは、ふだんは身近なス

ポーツの場である学校の校庭などを使用して活動しているようですが、以前と比べクラブチームの数が多くなってきているせいか、学校の校庭についても、思うように利用ができていないなどの声も聞いております。

そこで、現在、野球やソフトボール、またサッカーが行えるグラウンドが、学校の校庭を除いた場合、各区ごとにどの程度整備されているのか、お伺いします。

次に、脊振山系におけるハイキングコース等の整備についてお尋ねします。

早良区南部は自然豊かな脊振山系を擁し、福岡市民の水源として、また治山、治水、環境保全など重要な役目を果たしてきました。昨今の木材価格の低迷、林業の衰退によって、山林は放置されたままで荒れていましたが、ここ数年、森林環境税による森林整備が進み始める一方、二酸化炭素による地球温暖化問題に関して森林の大切さが市民に認識されるようになり、森林ボランティアもあちこちで活動がなされるようになりました。さらに、森林散歩が心身の健康に有効との特集記事が新聞や雑誌でよく取り上げられるようになり、これから一層、市民と森林との関係が深まっていくと思われます。このように市民の森林に対する関心は高まっていますが、早良区南部の脊振山系

が持つブナ、カシなどの自然林はもとより、杉、ヒノキなどの人工林を含めた豊かな森林資源が、市民を受け入れる環境が整っていないことによって生かされていないのがもったいなく思います。

私の自宅の近くに本市の水源である曲淵ダムがあります。その上流の野河内溪谷を一例として話を進めさせていただきます。

野河内溪谷は、水無鍾乳洞から井原山と続くハイキングコースとして古くから親しまれてきました。遊歩道沿いに巨岩や奇岩が迫り、大小のさまざまな滝があるなど、清流と緑がとても美しい溪谷で、夏は最高の避暑地となります。20年ほど前までは、夏休み期間は多くの家族連れでにぎわい、沢に沿って幾つものテントが並んでいたものでした。昨年の夏、懐かしさもあって、知り合いの小学生数人を連れて溪谷を沢伝いに登ってみました。溪谷の入り口は以前と余り変わっていませんが、途中、遊歩道がところどころ途切れていて、小学生には危ないと思われるところが何カ所かあったり、大水で流されてきたと思われる大木が何本も沢に横たわっていたりして、荒れてしまった感じがしました。野河内溪谷を訪れる人が少なくなり、荒れてしまった原因として、博多駅からの直通の定期バス路線が廃止になったこと、佐賀県内にどんぐり村などのレジャー施設や保養施設が整ったことで、溪谷を素通りして、三瀬峠を越えて佐賀方面に流れていったと考えら

れます。しかし、まだ早良区南部には、いろんな景勝地や史跡のほか、未開発で眠ったままのところが何カ所もあり、市民の皆様が健康づくりやいやしの場として安価で気軽に一日を自然の中で過ごせる、そんな場となり得るポテンシャルがあると思うのです。

そこで、早良区南部の豊かな自然環境を活用し、同時にスポーツ・レクリエーションを振興するという観点から、ハイキングコース等の整備についてお尋ねいたします。

まず、早良区に設置されている脊振山系ハイキングコースについて、主なルートをお尋ねいたします。

次に、イノシシ対策についてお尋ねします。

私の家は、代々早良区南部で農林業を営んできました。杉やヒノキや木炭を生産していましたが、モウソウダケは大きな副収入源でした。特に曲渕のタケノコは味がよく、市場では高値で取引されていました。木材の価格が低迷しているころ、収益性の高いタケノコは厳しい農林業を支える救世主的な作物でした。農協は国の支援を受けて缶詰工場を立ち上げ、東京に向けて出荷して好評を得ていましたが、中国からの安い輸入タケノコが市場に出始めたころからタケノコの生産が減り始め、人が入らなくなった竹山にイノシシが出没するようになったと考えられます。

この地域の農家のタケノコ離れが始まったのが 20 年ほど前だったと思います。それから以降は、タケノコだけではなく、いろんな農作物まで被害に遭うようになり、先日の議会におきましてイノシシに関する質問がありましたように、早良区の都市部の議員さんにまで農家の悲痛な声が聞こえてくるほどになりました。本市中山間部に所在する農家は高齢化が進み、かつ零細的な経営をしている中、作物をつくっても次々にイノシシによる被害に遭い、農業に対しての意欲をなくしている状況であります。また、設置した侵入防止さくスの管理においても、今後、高齢化が進めば、満足に管理できない状況になる可能性もあります。これらのことから、根本的にイノシシによる被害を防止するためには、捕獲によって個体数を減じることであると考えます。

以前より、中山間地域を中心にイノシシによる農業被害が拡大していることから、必要に応じて野生鳥獣の個体数の調整もあわせて行う科学的、計画的な保護管理が必要とされております。この保護管理は、鳥獣の捕獲に関する専門的な技術者である狩猟者なしでは実行し得ないので、野生鳥獣の駆除や生息分布動向の把握などは、狩猟者のボランティアに近い協力を依存して実施されておりますが、実際には鳥獣の保護管理実務の担い手である狩猟者も減少、高齢化し、捕獲要請に対し機動的な運用ができていないのが実態です。このため、捕獲が決

定的な被害防止の方策になり得ず、強力な繁殖力と食欲を持つイノシシの増加により、森林の生態系が破壊され、えさを求めて山里において農業被害をもたらしていると言えます。

そこで、このような状況の中、イノシシによる農産物の被害の現状及び被害額、捕獲数についてお伺いします。

以上で1問目を終わり、2問目からは自席にて質問いたします。

○道路下水道局長 国道263号の渋滞緩和に向けた道路整備の取り組み状況と野芥口交差点における渋滞対策につきましてお答えいたします。

早良区荒江から三瀬峠を越えて佐賀市に至る国道263号につきましては、バスなど大型車の通行の円滑化や冬場の積雪、凍結、急カーブ、急勾配などの交通障害を解消するため、佐賀県と福岡市が共同で三瀬トンネル延長2.4キロメートルやループ橋延長1.9キロメートルの整備を行い、佐賀方面との広域的な連携の強化を図り、平成20年度にループ橋の完成に至っております。現在は、重留工区延長830メートルについて、平成25年度完了を目指し、都市計画で定められた幅員16メートルへの拡幅整備を行っております。渋滞対策といたしましては、幹線道路ネットワークの確立が基本と考えており、国道263号につき

ましては、早良区南部地域の都市計画道路の整備など行ってまいりたいと考えております。また、野芥口交差点につきましては、外環状道路の全線開通に伴い、国が交通実態調査を行っておりますので、その結果を見て必要な渋滞対策を検討してまいります。以上でございます。

○市民局長 早良区南部における運動広場、公園の整備についてのお尋ねでございますが、まず野球やソフトボールが可能なグラウンドにつきましては、東区 33 面、博多区 9 面、中央区 3 面、南区 4 面、城南区 2 面、早良区 3 面、西区が 10 面でございます。サッカーなどが可能なグラウンドにつきましては、東区 8 面、博多区 3 面、中央区 2 面、城南区 1 面、早良区 1 面、西区が 5 面でございます。

次に、脊振山系におけるハイキングコースの整備についてのお尋ねでございますが、早良区に整備をされております脊振山系ハイキングコースにつきましては、主なルートといたしまして、野河内溪谷、花乱の滝、坊主ヶ滝、小爪峠、椎原峠及び車谷の 6 つがございます。以上でございます。

○農林水産局長 イノシシ対策についてお答えいたします。

まず、福岡市のイノシシによる農産物の被害でございますが、中山

間地域や島、沿岸部の農地を中心といたしまして近年増加をいたしており、稲や野菜を食い荒らすことによる農産物の被害やえさを求めて土地を掘り起こすことにより農地が荒れるなどの影響が出ております。平成 19 年度から 22 年度までのイノシシの農作物被害額及び農作物被害に係るイノシシの捕獲数につきましては、平成 19 年度の被害額 4,951 万 7,000 円、捕獲数 268 頭、20 年度の被害額 1 億 1,517 万 6,000 円、捕獲数 373 頭、21 年度の被害額 1 億 1,485 万 2,000 円、捕獲数 404 頭、22 年度の被害額 8,813 万円、捕獲数 527 頭となっております。以上でございます。

○まず、国道 263 号の渋滞対策についてお尋ねします。

現在行われている国道 263 号の整備により、走りやすくはなりますが、車線数は 2 車線のままで車線がふえるわけではなく、抜本的な渋滞対策にはなりません。そもそも渋滞は国道だけの問題ではありません。先ほどの答弁でもありましたとおり、渋滞というものはそれに交差したり並行したりしている周辺の道路の全体的な問題もはらんでいきます。私も、お互いに補完し合う道路のネットワーク化が重要であると考えています。

そこで、早良区南部における国道 263 号の周辺での道路ネットワー

クの整備にどう取り組んでいるのかお尋ねします。

次に、早良区南部における運動広場、公園の整備についてですが、市民が生涯にわたって心身ともに健やかな生活が送れるよう市民のスポーツ・レクリエーション活動を推進するためには、子どもと大人と一緒に日常の生活の中でスポーツを習慣として身につけることができるような環境づくりが大切です。お答えいただいたとおり、日常的に身近に利用できるグラウンドは各区である程度整備されているようですが、では特に野球やソフトボール、サッカーなどの大会が開催できるような大きなグラウンドになるとどうでしょうか。大会ができるようなグラウンドを整備し、維持運営していくことになると、広い敷地が必要ですし、管理運営にも専門的なノウハウが必要でしょうから、専ら公共施設である公園に頼るしかないのではないかと考えられます。

そこで、このような大きなグラウンドを持つ公園はどのような公園があり、市内では区ごとにどのような配置状況になっているのか、お伺いします。

次に、脊振山系におけるハイキングコース等の整備についてお尋ねします。

早良区には、脊振山系ハイキングコースの主なルートとして、野河内溪谷ルート、花乱の滝ルートなど6つのルートがあるということで

すが、私のところに利用者から、駐車場が十分でない、トイレが足りないなどとの声が寄せられております。

そこで、本市がトイレなどの施設整備を行った早良区のハイキングコースについて、その整備概要をお尋ねいたします。

また、金山に至るハイキングコースの途中には、市民に身近なアウトドアスポットである坊主ヶ滝や花乱の滝があり、その付近においてコースを横切りながら椎原方面までつながる林道の整備が進められておりますが、その整備状況はどうなっておりますか、お尋ねします。

次に、イノシシ対策についてですが、今の答弁からも、本市においてもイノシシの農業被害は高どまりの状態であると言えます。ふえ過ぎた鳥獣による農作物に対する被害に関する問題が全国各地で発生しており、被害の著しい中山間地域等では深刻な社会問題になっていることから、被害を軽減するためには、猟友会による捕獲圧力が低下している中、捕獲手段とあわせて、侵入防止さくの設定などによる予防的な被害防除対策を実施することが有効だと考えられます。

そこで、イノシシによる農業被害についてのこれまでの対策及び今後の対策について伺います。

また、捕獲後の野生獣个体処分について、地元ではその処理に当惑しており、あわせて処理対策について伺います。

以上で2問目を終わります。

○道路下水道局長 早良区南部における国道263号周辺での道路ネットワークの整備についてお答えいたします。

国道263号のバイパス的な役割を担う路線として、国道の西側を南北に走る都市計画道路有田重留線と一般県道内野次郎丸弥生線、また国道263号と那珂川町方面を結ぶ主要地方道福岡早良大野城線等の整備を行っており、引き続き国道263号を基幹とした道路ネットワークの形成を図り、交通の分散化に取り組んでまいりたいと考えております。以上でございます。

○住宅都市局長 大きなグラウンドを持つ公園についてお答えいたします。

野球やソフトボール、サッカーなどの大会が開催できる規模のグラウンドを有する公園につきましては、広域的な利用を想定し面積が10ヘクタール以上の総合公園や運動公園、またこれらを補完する面積が4ヘクタール以上の地区公園などの一定規模以上の公園となっております。このような公園につきましては、市街化区域内においては地域間で大きな差を生じないようにバランスに配慮して配置しているところ

でございます。これらの公園の配置状況を区ごとで見ますと、東区は雁の巣レクリエーションセンターなど5カ所、博多区は東平尾公園など4カ所、中央区は舞鶴公園、南区は桧原運動公園、城南区は西南杜の湖畔公園、早良区は百道中央公園、西区は西部運動公園など3カ所となっております。以上でございます。

○市民局長 脊振山系におけるハイキングコースの整備についてのお尋ねでございますが、野河内溪谷沿いの野河内溪谷自然歩道と坊主ヶ滝を經由し金山山頂に至る金山自然歩道の2カ所につきましては、公衆便所を各1カ所、危険箇所には落下防止さくを整備しているほか、他のハイキングコースも含めまして、入り口や分岐点などに案内板、道標を整備いたしております。以上でございます。

○農林水産局長 まず、林道についてでございますが、林道でございます森林基幹道早良線の整備状況につきましては、現在、福岡県が事業主体となりまして、早良区大字曲渕から大字椎原を結ぶ14.9キロメートルを計画延長として整備中でございます。平成22年度末の整備済み延長は8,026メートルとなっております、進捗率は約54%となっております。

続きまして、イノシシ対策についてでございます。

イノシシの農作物被害についての、まずこれまでの対策でございますが、平成 16 年度から 21 年度においては、国の水田対策事業の一環として、電気さく延べ 101.5 キロメートルを設置しており、あわせて猟友会による捕獲も進めてまいりました。しかしながら、年々被害が増大していることから、新たに福岡市鳥獣被害防止計画を策定し、これを実施するための組織として、福岡市や農協、猟友会、福岡県農業改良普及センター等で構成する福岡市鳥獣被害対策協議会を設立いたしました。平成 22 年度は、この協議会を事業主体といたしまして、イノシシなどによる被害の防止を図るため、水田に限らず、野菜、果樹等にも適用される国の鳥獣被害防止総合対策事業を実施し、356 農家を対象にワイヤメッシュさく延べ 59.6 キロメートル、電気さく延べ 50.8 キロメートルを整備するとともに、箱わな 22 台の導入及びイノシシ被害を防止するための農業者への研修会を 3 カ所で行うなどの対策を行っております。

また、今後の対策といたしましては、平成 23 年度は国の鳥獣被害緊急総合対策事業を実施し、引き続きワイヤメッシュさく、電気さく等の整備を進めてまいります。このような対策を実施することにより、平成 23 年度は、イノシシによる農作物被害額につきまして、平成 20

年度の被害額から 30%以上削減できるよう努力してまいりたいと考えております。

また、捕獲後の個体処分につきましては、福岡市や農協、猟友会、森林組合などで組織する福岡市広域有害鳥獣捕獲連絡部会に対し捕獲活動とあわせて支援を行っているところであり、今後とも、支援を継続してまいりたいと考えております。以上でございます。

○まず、国道 263 号の渋滞対策についてですが、近年、道州制が浮上してきた中、県庁所在地間の交通ネットワークの強化が今まで以上に必要となってくると考えており、現在の国道 263 号の事業計画では将来に対応できるとは思われません。将来を見据えて、佐賀市までの幹線道路である国道 263 号の機能強化に取り組んでいくよう要望いたします。

また、国道 263 号の 4 車線拡幅などによる強化は、短期的には困難と思われまますので、国道 263 号のバイパス的な役割を担うことができる県道飯場金武線の整備や有田重留線の国道 263 号までの延伸も早良区南部の渋滞対策として有効と考えます。これもあわせて要望いたします。

次に、早良区南部における運動広場、公園の整備については、お答

えいただきましたとおり、早良区は区域が広いにもかかわらず、野球やサッカーなどの大会を行うことができる大きなグラウンドがある公園は百道中央公園しかないということであります。百道中央公園は南北に長い早良区の最も北側に位置していることもあり、早良区の中部や南部にお住まいの皆さんからは、こういった種目の大会の開催になると、県境を越えて唐津市や佐賀市まで足を延ばさざるを得ないという声を聞きます。全市的に見た場合、このような施設の配置状況は甚だ不均衡と言えるのではないのでしょうか。まずは、早良区に大きなグラウンドがある公園を整備する必要があるのではないかということをご指摘させていただきます。

しかし、現実的には、市街化が進んだ地域、いわゆる市街化区域では、まとまった用地を取得することが難しく、大規模な公園の整備は困難であろうということは容易に推察できます。早良区でも北部、中部は市街化が進んでおり、大規模な公園を整備する余地はほとんどないように見えます。一方、南部に目を向けますと、市街化区域もありますが、大部分が農林業を基盤とする市街化調整区域であります。山林や田畑、河川など、豊かな自然環境と調和するような形でこのような施設を整備することができれば、多くの利用者が訪れ、市民のスポーツの振興のみならず、そのにぎわいが地域づくりや地域の活性化の

一助にもなり、地域住民の皆さんにも歓迎されるのではないかと考えております。

そこで、市民のスポーツ・レクリエーション活動の場の充実を図るため、早良区南部に野球やソフトボール、サッカーなどの大会ができるような大きなグラウンドがある公園を整備すべきと考えますが、当局の考えをお尋ねします。

次に、脊振山系におけるハイキングコース等の整備については、野河内溪谷自然歩道や金山自然歩道はもとより、椎原から脊振山及び金山に至るルートなど、その他の脊振山系ハイキングコースにおいても駐車場、トイレ等の整備を行うなど、市民がより快適に利用できるハイキングコースの整備に取り組んでいただきたいと思います。その所見をお尋ねします。

また、早良地区の林業振興を目的として進められている林道早良線の整備においても、既設ハイキングコースを横切る箇所については、市民のコース利用を考慮した整備をお願いしたいと思いますが、あわせてその所見をお尋ねいたします。

最後に、イノシシ対策についてですが、イノシシは数十年の間に急速にふえ始め、全国的に農業被害が増大しています。しかしながら、イノシシが獣害を起こす動物として研究されたのはつい最近のことで、

農業被害が起こるようになってようやく本格的な研究が始まったとのことで、生態についてもまだよくわからないところもあって、抜本的な対策がないともお聞きしております。全国的にも分布が広がり被害が増大している中、一行政区単位で被害対策を行っても厳しいと私は考えます。農産物の自給率を確保するためにも、国レベルで対策を練っていただかないと難しいと感じております。

そこで、イノシシ被害対策について、国に対しての働きかけを要望しておきます。

以上をもちまして、私の質問を終わらせていただきます。

○住宅都市局長 早良区に大きなグラウンドがある公園を整備すべきではないかとの御指摘についてでございますが、まず早良区中部地域におきましては、野球やソフトボール、サッカーなどの大会ができる規模のグラウンドを有する公園として、近くに城南区七隈の西南杜の湖畔公園や西区飯盛の西部運動公園がございます。また、早良区南部地域におきましては、ほとんどが市街化調整区域であり、公園の整備に当たっては、農地などとの土地利用の調整もあることから、このような地域での大規模公園整備のあり方やその整備手法について、関係局とも協議し、調査してまいります。以上でございます。

○市民局長 脊振山系ハイキングコースの整備についてのお尋ねでございますが、ハイキングコースの施設整備につきましては、本市の恵まれた自然環境を活用するとともに、身近なレクリエーションの場を提供し、市民の健康づくりを促進する観点からも取り組んでいく必要があると考えております。議員御指摘の脊振山系ハイキングコースの施設整備につきましては、今後、事業主体や手法なども含め、検討を進めてまいります。以上でございます。

○農林水産局長 林道の整備についてでございますが、森林基幹道早良線が既設ハイキングコースを横切る箇所を整備につきましては、その当該箇所に階段や案内標識を設置するなど、市民のコース利用に配慮した整備を、地元関係者などと協議しながら、事業主体である福岡県に要望してまいりたいと考えております。以上でございます。